



## さあ、答え合わせをしよう！

Vol.75 調べてみよう～生活文化「衣」②

※ココを見てね! ▶ 調べてみよう～生活文化「衣(い)」

1. 旧石器時代(きゅうせっきじだい)の人が来ていた衣服(いふく)は、どんなものでしたか？

正解:②シカなどの動物の毛皮(けがわ)

この答えはかんたんだったかな。正解は、②シカなどの動物の毛皮(けがわ)。生活文化～「衣(い)」の最初のイラストにもあるように、この時代は獲物(えもの)を追(お)いかけながら狩(か)りをして暮(く)らす狩猟生活(しゅりょうせいかつ)をしていたので、男性も女性も、自分たちが捕(つか)まえた動物の毛皮(けがわ)をはいて、衣服(いふく)としていたと思われます。ちなみに、日本列島(れっとう)に絹織物(きぬおりもの)が伝わったのは、朝鮮半島(ちょうせんはんとう)との交流(こうりゅう)がはじまった弥生時代(やよいじだい)です。また、ヨーロッパでドレスの原型(げんけい)といえるものが誕生(たんじょう)したのは11世紀以降(いこう)。宝石(ほうせき)をちりばめたドレスが作られるようになったのは、中世ヨーロッパの貴族文化(きぞくぶんか)が栄(さか)えた15世紀ごろなので、日本列島(れっとう)の室町時代(むろまちじだい)の話ですね。

1. 縄文時代のアクセサリの中で、「耳かざり」にはいくつかの種類(しゅるい)があったと考えられています。

そのうち、現代(げんだい)のピアスのように、耳に穴(あな)をあけてつけるものは どれですか？

正解:①珓状(けつじょう)耳かざりと ②耳栓(じせん)

「珓状(けつじょう)耳かざり」は、石を削(けず)ってデザインし、穴(あな)をあけたもの。一方、「耳栓(じせん)」は、土をこねて形をデザインし、焼(や)いたもの。どちらも耳に穴(あな)をあけてぶら下げるタイプです。だから、①と②の2つが正解です。「イヤークフ」とは、最近流行(はや)りのアクセサリで、耳たぶではなく、耳の形状(けいじょう)を利用(りよう)して引っ掛けるタイプの耳かざりのこと。女子はもちろんオシャレ男子にも人気だよ。

3. 人物埴輪から、当時の人たちの服装がわかります。古墳時代には、男性も女性もアクセサリをつけていたようですね。文化庁が所蔵(しょぞう)する「首飾りをつけた男性」の埴輪は、何県から見つかりましたか？

正解:②群馬県(ぐんまけん)

古墳(こふん)のまわりに置(お)かれた埴輪(はにわ)には、いろんな種類(しゅるい)があります。筒(つつ)や壺(つぼ)、かぶとや船(ふね)、家、動物、人物など…、研究者(けんきゅうしゃ)たちは、それらの形や飾(かざ)りから手がかりをみつけ、当時(とうじ)がどんなようすだったか、どんなところと交流(こうりゅう)があったかなど、一つひとつ紐解(ひもと)いていきます。たとえば、人物埴輪(じんぶつはにわ)なら、人々の服装(ふくそう)を知るのに役立(やくだ)ちます。文化庁(ぶんかちょう)が所蔵(しょぞう)する「首飾りをつけた男性」の埴輪(はにわ)は、状態(じょうたい)がよく、祭式(さいしき)のようすを解明(かいめい)する上で高く評価(ひょうか)され、一括(いっかつ)して国の重要文化財(じゅうようぶんかざい)に指定(してい)されました。埴輪(はにわ)の現物は、群馬県立歴史博物館および群馬県埋蔵文化財調査センターに保管(ほかん)・展示(てんじ)されています。ちなみに、栃木県(とちぎけん)の真岡市亀山(もおかし かめやま)から出土(しゅつど)した人物埴輪(じんぶつはにわ)「胡座の男子(こざのだんし)」は 組んだ足がかわいいので、こちらも画像検索(がぞうけんさく)してみてください。また、古墳(こふん)から出土(しゅつど)する埴輪(はにわ)の南限(なんげん)は南九州地方までとなっており、沖縄本島で埴輪(はにわ)はみつかりません。この時代の日本列島(れっとう)と琉球諸島(りゅうきゅうしょとう)は、全く異(こと)なる文化圏(ぶんかけん)であったことがあらためてわかりますね。